

～実践記録～

1. 学校名：山ノ内町立西小学校

2. 対象：2年生 児童24名

3. 活動内容

(1) 活動名 「炭焼きをしよう」

(2) 活動目標

- ・山ノ内町の自然を大切にする気持ちを深める。
- ・みんなの力を合わせる大切さを実感する。
- ・わたしたちのクラスと言えば「炭焼きだ」という誇りや自信を持つ。

(3) ESDの視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input checked="" type="checkbox"/> 責任性（責任を持って） |
| <input type="checkbox"/> その他 | |

②育成する資質・能力

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input checked="" type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連するSDGs

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

15 陸の豊かさも守ろう



(5) 活動の内容

①昔、この地域で盛んに作られていた物を知ろう

- ・昔、この地域で盛んに作られていたものを予想する。
- ・資料から、今から約290年前に木炭作りが始まったことを知る。
- ・なぜこの辺りは炭作りが盛んだったのか考える。 ・炭についておうちの人から聞いて調べる。

②炭焼きで使う木をとりに行こう

- ・町の間伐材置き場で細い木を拾う。 ・拾った木を長さ73cmに切りそろえる。
- ・切り残った木や枝を、短い木を燃料用として拾う。

③「木とり」の様子を絵で表そう

- ・「木とり」の写真を見ながら、自分が木をとったり切ったりする様子を絵に描く。

④歌を通して「間伐材」についてもっと知り、それをみんなに伝えよう

- ・「間伐材」とは何か知る。 ・「間伐材」の生き方から自分の生活について振り返る。
- ・合奏唱「KANBATUZAIのぼく」の合奏と合唱の練習をする。 ・音楽会で発表する。

⑤炭焼き用の穴掘りと粘土質の土を運ぼう

- ・炭焼き用のドラム缶窯を埋める穴を掘る。
- ・炭焼きで使う大量の粘土質の土をほぐし、炭焼き場の近くまで一輪車で運ぶ。

⑥炭焼き用の道具や材料・燃料を運ぼう

- ・炭焼きで使うドラム缶窯、煙突、鉄の棒、レンガを炭焼き場まで運ぶ。
- ・自分たちでとってきた間伐材を炭焼き場まで運ぶ。

⑦窯詰めをしよう

- ・ドラム缶窯に煙突を取り付けて、ドラム缶窯を半分ほど土に埋める。
- ・73cmに切ってきた木を、①太めの木、②中ぐらいの太さの木、③細い木、の3種類に分ける。
- ・窯の下の方は細い木、上の方は太い木になるように詰める。

⑧窯口をつくろう

- ・粘土質の土を一輪車の中に入れ、水を混ぜながら「耳たぶ」ぐらいの軟らかさにする。
- ・野球ボールぐらいとカボチャぐらいの2種類の大きさの泥団子を作る。
- ・レンガに泥を塗って積み、ドラム缶窯の前にトンネルのような「窯口」をつくる。
- ・泥団子を投げたり押しつけたりして、隙間を埋める。

⑨焼きじゃがいもの準備をしよう

- ・82個のじゃがいもをきれいに洗う。
- ・洗ったじゃがいもをアルミホイルでくるむ。

⑩炭焼きをしよう

- ・新聞紙や杉っ葉、細い枝を使って薪に火を着ける。
- ・うちわで火を扇ぎ、窯口の中に熱風を送り込む。
- ・一輪車に粘土質の土を入れ、水を混ぜて泥団子をつくる。
- ・じゃがいもを焼く。
- ・焼きじゃがいもを食べる。
- ・煙突を外して煙の温度を測る。
- ※夜の作業は先生にやってもらう。

⑪窯出しをしよう

- ・窯も周りの土やレンガを取り除き、窯を穴から引き出す。
- ・窯からできた炭を取り出す。

⑫炭焼きの片づけをしよう

- ・炭焼き場に掛けておいた銀色のシートを洗って干す。
- ・炭焼き場に使った場所をきれいに埋め戻す。
- ・たくさんのレンガを洗って干す。
- ・ドラム缶、煙突、ドラム缶のふたを洗って干す。
- ・使った一輪車、草削り、シャベルを洗ってもとの場所に返す。

⑬炭を使おう

- ・炭に火を着ける方法をタブレット（インターネット）で調べる。
- ・七輪に炭を入れ、火を着ける。
- ・炭火でお餅を焼き、磯辺焼きを作る。
- ・灰を片付け、お借りした七輪をきれいにする。
- ・炭が燃える七輪で暖をとる。
- ・焼いたお餅をいただく。



4. 活動の成果

細い枝等の長期間置かれていた間伐材を炭として大事に活用し、炭の有用性を、体験を通して学ぶことができた。また、土や木に直接接触して、自然のものの良さを実感するとともに、土建屋さん、左官屋さん、炭焼き職人、炭火料理人といった職業体験をすることができた。さらに、「大変だけど楽しい」という働くことの意義や良さも感じるようになったように思う。そして、何よりもクラスとして、みんなで力を合わせれば炭焼きもできるんだという、協力することの大切さにも少しずつ理解できたように思う。

【感想】

今日は、窯出しをしました。まず、ドラム缶の上に載っている土を草けずりで下ろしました。レンガと鉄の棒も取りました。次に、ドラム缶を50cmぐらい前に出しました。その次に、ドラム缶のふたを取りました。中をのぞいてみると、白色で少し黒いところが見えました。炭を取り出してみると、黒色で光に当てると、少し光っていました。1つも残さず取り出しました。窯出しはとってもうまくいって、炭焼きで頑張ってたよかったですと思いました。

5. 指導方法・体制の工夫

- ①活動内容をプリントにし、活動の見通しをもてるようにし、自分たちから動けるようにした。